

解 答

一

問一 (1) 骨 (2) B 興味 C 石火

問二 話すときには相手の目を見て話す

問三 ウ 問四 悲しめばり 問五 エ 問六 ア 問七 ア

問八 自分にやさしくしてくれるママを守りたいという意志や、怒りの感情をはっきり表すことができるようになったということ。

問九 a 見当 b 的 c 敬遠 d 絶句

二

問一 a 縦 b 温 [かかった] c 模様 d 文武 e 改 [め]

問二 疲れた様子 問三 ウ

問四 (1) おばあちゃんの死など少しも考えず

(2) おばあちゃんが胃がんの末期であることも知らずに、元気そうな様子を見て、安心してしまったから。

問五 おばあちゃんがこのまま息を引きとること。

問六 イ

問七 おばあちゃんと長い時間、一緒に過ごしていたのにおばあちゃんのことをよく知ろうともせず、一緒にやりたかったこともできなかったと後悔している気持ち。

問八 おばあちゃんといちばん仲良しなのは私だから

問九 ア・エ 問十 エ・オ

解 説

一 出典は、富原真弓「ムーミン谷のひみつ」。

問一 (1) 骨が折れる＝苦勞する、面倒である。(2) 興味津々＝興味があとからあとからわいてきて尽きないこと。
電光石火＝動作がきわめて速いこと。すばやいこと。問二 話すときの「あたりまえのエチケット」とは何でしょう。「ニンニの眼があるとおぼしきあたりに眼をとめようと努力はする」とあるので、「話すときに相手の目を見て話すこと」と考えられます。問三 「愛されて育ったムーミントロール」にはわかっていないとあるところから、「ニンニ」が底意地の悪いおばさんに皮肉を言われ続けてきたこと（愛されて育っていないこと）がポイントだとわかります。おばさんの皮肉にひたすら堪えてばかりいたニンニは受け身の姿勢が身についてしまって、自分から何かをする意欲をなくしたのです。

問四 「同情はなんの役にもたたない」とは、「気持ち」だけではだめで、「行動」が大切だということです。ミイのことで、ミイの中で、「気持ち（同情）だけ」を否定しているのは「悲しめばリスを助けることになる」ともいうの」です。

問五 「照れる」とは気恥ずかしくなることです。作者ヤンソンのことばを借りて、筆者は「甘ったるい感傷に流れそうなどき、ぴりっと辛口のコメントをし〜」とミイのことを評しています。優しさに流されないのがミイの特質です。

問六 「受け身の姿勢が、～ミイには我慢ならない」「元気というのは与えられるものではない」というところから、ミイはニンニが「自分から」変わるのを望んでいることがわかります。

問七 問三で考えた「愛されて育っていないこと」が、ニンニの姿を見えなくしている理由です。ムーミンママの気配りや愛情がニンニに少しずつ伝わっていった、自分の存在に自信がもてるようになってきたということです。

問八 「個性やたしかな信念をもたない存在」＝「受け身の姿勢」が身に付いてしまって姿が見えなくなったニンニがムーミンママの愛情で首から下までは見えるようになってきました。そのムーミンママを守りたいと思って、ニンニは「生まれてはじめて心の底から腹をたて、怒りをはっきり表すことができたのだ」とあります。自分の意志をはっきり持つことで、ニンニは「自分の顔」を取り戻したわけです。

二 出典は、植村花菜「トイレの神様」。

問二 「いつものように寝ている」「手がだんだん細く小さくなっていった」などから、おばあちゃん健康を気遣っていることがわかります。

問三 この前の部分で「おばあちゃん是不滅」、「このままの状態がずっと続いてくれるような気もどこかでしていた」とあります。「だから」入院したと聞いて「びっくりした」のです。

問四 「能天気」は「軽薄なこと、のんきなこと」という意味です。(1) ここでは、入院したにもかかわらず、おばあちゃんの元気な顔を見て安心してしまったことを言っています。(2) 後になって胃がんの末期であることを知り、おばあちゃんの死を考えることもしなかった自分ののんきさを後悔しています。

問五 おばあちゃんのようにすが、愛犬チャッピーの最期を看取ったときのように同じように感じ、このまま息をひき

とっていくのだろうと思ったのです。

問六 3行あとの、「私の背が伸びるにつれ、おばあちゃんが縮んでいくような気がして、それと同時におばあちゃんと
の距離が開いていった」から、おばあちゃんの実在感が薄れていったことを読み取ります。

問七 「弾いてあげた」よりも「弾いてあげたかった」のほうが、亡くなったおばあちゃんへの強い思いが込められています。一緒にいた時間が長かったのに、もう手遅れだと後悔している気持ちが強調されています。

問八 おばあちゃんのこと、知らないことがたくさんあることに気づき、今まで「おばあちゃんといちばん仲良しなのは私」と言ってきたことを、恥ずかしく悲しく申し訳なく思っています。

問九 イ「仕事のついでに帰っていた」、ウ「いつもお決まりのおばあちゃんとの時間」、オ「涙もろく」などが本文の内容とちがいます。

問十 ア「身近な人以外は信じられない」、イ「家族にも気づかれないように」、ウ「自分のところを出て行った」が本文の内容とちがいます。